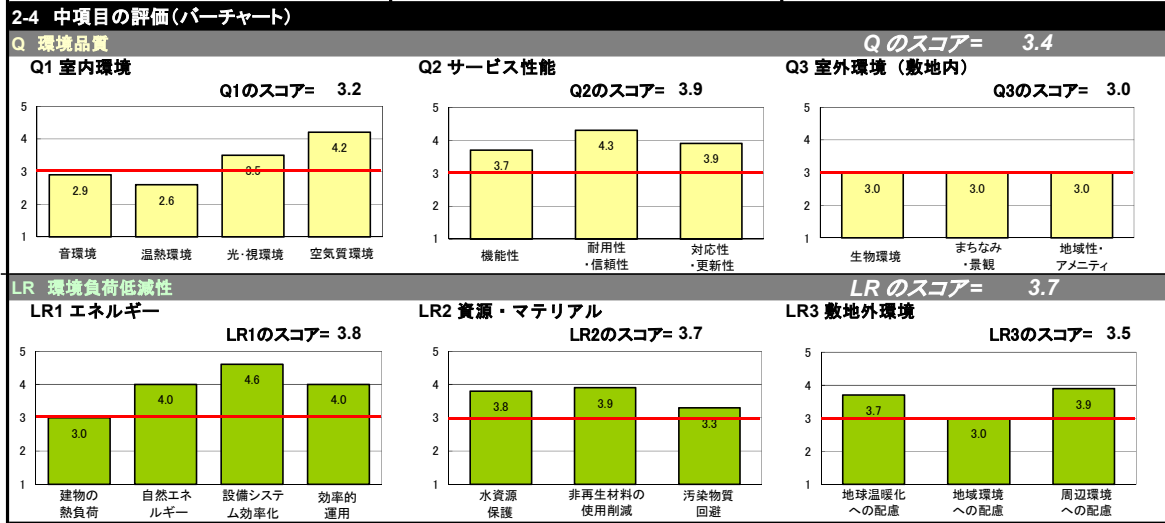
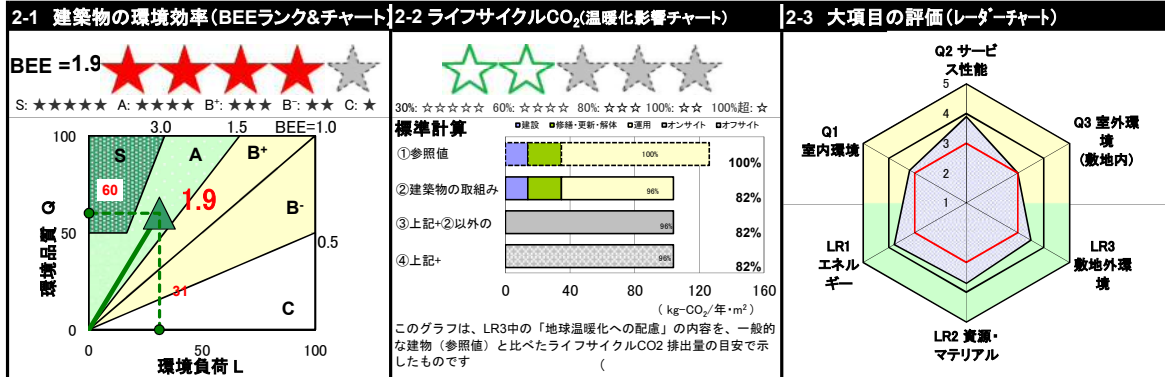


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	男川浄水場管理棟	階数	地下1階地上3階
建設地	岡崎市大平町塚畑	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	20人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,650時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年7月 予定	評価の実施日	2014年7月1日
敷地面積	57,276.50 m ²	作成者	庄村 昌明
建築面積	815.71 m ²	確認日	2014年9月7日
延床面積	2,116.46 m ²	確認者	早矢仕 芳昭



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">65.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>岡崎の石</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										3.4
Q1 室内環境										3.2
1 音環境						2.9	0.15			2.9
1.1 騒音						4.0	0.40			
1 室内騒音レベル					騒音レベル≤45とした。	4.0	1.00			
1.2 遮音						1.8	0.40			
1 開口部遮音性能						1.0	0.60			
2 界壁遮音性能						3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音						3.0	0.20			
2 温熱環境						2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能						3.0	0.25			
3 外皮性能						3.0	0.38			
4 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御						1.0	0.20			
2.3 空調方式						3.0	0.30			
3 光・視環境						3.5	0.25			3.5
3.1 昼光利用						3.0	0.30			
1 昼光率						3.0	0.60			
2 方位別開口						3.0	0.40			
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策						3.0	0.30			
1 グレア対策						3.0	1.00			
3.3 照度						3.0	0.15			
3.4 照明制御					自動照明制御を使用した。	5.0	0.25			
4 空気質環境						4.2	0.25			4.2
4.1 発生源対策						5.0	0.50			
1 化学汚染物質					室内の仕上材料はF☆☆☆☆とした。	5.0	1.00			
4.2 換気						3.6	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能						3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮					吸気口は、各種排気口と異なる方位・6m以上離れて設置した。	5.0	0.33			
4.3 運用管理						3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						1.0	0.50			
2 喫煙の制御					全館禁煙とした。	5.0	0.50			
Q2 サービス性能						-	0.30			3.9
1 機能性						3.7	0.40			3.7
1.1 機能性・使いやすさ						3.6	0.40			
1 広さ・収納性					ゆとりのある室内高さ・広さを確保し、使い易い動線計画とした。	5.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33			
3 バリアフリー計画						3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30			
1 広さ感・景観					主要な間仕切りをガラスとし、空間の広がりを感じられる計画とし	4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース					執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを設けた。	4.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理						4.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計					十分な設備配管スペースを確保した。	5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保					維持管理作業が容易な外観、室内計画とした。	4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						4.3	0.31			4.3
2.1 耐震・免震						5.0	0.48			
1 耐震性					基準法×1.5の耐震性能を確保した。	5.0	0.80			
2 免震・制振性能					免震構造を採用した。	5.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.8	0.33			
1 躯体材料の耐用年数					住宅品確法のコンクリート等級2(耐用年数50~60年)を確保した。	4.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					タイル貼りとした。	5.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					主要配管の2種以上にC以上を使用した。	4.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	②	非常用発電設備や無停電電源設備を備えている。 大きな補修をすることなく重要な機能が確保できる。	3.6	0.19	-	-	3.9
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
	3	電気設備			3.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法			5.0	0.20			
	5	通信・情報設備			4.0	0.20			
	5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.9	0.29	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり	3.1 空間のゆとり		②	配管の布設及び更新に十分な階高を確保した。 十分な設備配管スペースを確保した。 積載荷重3500N/m ² 以上を確保した。	4.6	0.31	-	-	-
	1	階高のゆとり			5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	4.0	0.40	-	-	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり		4.0	0.31	-	-	-	-	-	
3.3 設備の更新性					3.4	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性	3.0	0.17	主要設備機器の更新に対応し、更新・修繕時に建物機能を維持で	3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性	3.0	0.11						
3	電気配線の更新性	3.0	0.11						
4	通信配線の更新性	5.0	0.22						
5	設備機器の更新性	3.0	0.22						
6	バックアップスペース	3.0	0.22						
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			③		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			④		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			④	地域材を使用した。見学者説明室を設けた。	3.0	0.50	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用					4.0	0.20	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	3.0	0.50	地熱・河川熱を利用した空調設備とした。	5.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	5.0	0.50						
3 設備システムの高効率化				ERR換算値=27%	4.6	0.30	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					4.6	-	-	-	-
集合住宅の評価					4.0	0.20	-	-	4.0
4 効率的運用					4.0	0.20	-	-	4.0
4.1	モニタリング	5.0	0.50	モニタリング機能を有する空調設備とした。	3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護					3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水				節水型衛生器具を採用した。	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.6	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	4.0	0.67	雨水利用ができる。	3.0	0.33	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	4.0	0.33	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.9	0.63	-	-	3.9
2.1	材料使用量の削減	3.0	0.07	-	3.0	0.25	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.21						
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.21						
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.21						
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	-						
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	5.0	0.25						
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.22	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				有害物質を含有しない接着剤・シーリング材を使用した。	4.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68	-	-	-
1	消火剤	-	-	-	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	1.00	-	-	-	-	-	
3	冷媒	-	-	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO ₂ =82%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	4.0	0.25	雨水利用ができる。	3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	自転車置場、駐車スペースを十分に確保した。	4.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	4.0	0.25						
4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25						
3 周辺環境への配慮					3.9	0.33	-	-	3.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					5.0	0.40	-	-	-
1	騒音	5.0	1.00	騒音規制法に定める現行の規制基準より大幅に抑えられている。	-	-	-	-	-
2	振動	-	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制	3.0	0.70	-	3.0	0.30	-	-	-
2	砂塵の抑制	-	-						
3	日照障害の抑制	3.0	0.30						
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70	光害対策ガイドラインのチェックリストを一部満たしている。	3.0	0.30	-	-	-
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30						

重点項目スコアシート

男川浄水場管理棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.5_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				4.0
Q2-2	耐震性・信頼性	4.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
④ 地域材の活用				3.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 省エネルギー及び環境保全に配慮した浄水場を目指すもので、その中枢を担う管理棟は自然エネルギーを活用するとともに、災害時における機能確保の面からも十分に配慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 用途に適した騒音対策、光環境計画を行い、快適な室内居住環境の向上に配慮した。また、有害な化学物質を放出する材料を室内仕上に用いず、良好な空気室を確保した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ゆとりのある室内空間(高さ、幅)を確保するとともに、使用状況を綿密に想定し、使い易い動線計画、開放的な視認空間の確保に配慮した。また、防災拠点施設として、免震構造を導入し、災害時における機能確保に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緑地と水場を適切に確保し、良好な景観の確保と生物環境の向上に配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネルギーを実現するため、太陽熱・空気熱・地中熱・水熱を利用した高効率なヒートポンプシステムを利用した空調設備を採用した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な設備の設置と節水型器具の採用で、水資源保護に配慮した。 また躯体と仕上げ材料が容易に分別でき、将来の更新・解体時に再利資源として利用できるように配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 十分な外部スペース(駐輪、駐車スペース)を確保し、周辺地域へ悪影響を及ぼさない計画に配慮した。 また敷地外への騒音が小さくなるよう、施設計画及び設備計画に配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。